

## 2007 年度わが国貿易収支、経常収支の見通し

2006 年 12 月 5 日(火)  
社団法人 日本貿易会

- **要旨** 世界経済の拡大に伴い、輸出は 80 兆円超え、貿易収支は再び拡大  
貿易収支と所得収支の拡大により、経常収支は過去最高の 24 兆円台へ

### 1. 商品別貿易の見通し(通関ベース)

● 2006 年度 - 輸出、輸入ともに 3 年連続の 2 ケタ台の伸び、貿易収支は再び拡大へ

輸出総額は 76 兆 3,056 億円で前年度比 11.7%増の見込み。輸出数量は、堅調な世界経済の拡大や円の実質実効レートが 1985 年以來の円安水準にあることなどから前年度比 6.5%増。輸出価格は、輸出品の高付加価値化が進むことなどにより同 4.9%上昇。北米、アジア向けの輸送用機器や一般機械を中心に、幅広い品目で好調が続く。

輸入総額は 68 兆 963 億円で前年度比 12.7%増の見込み。輸入数量は、日本経済の回復を背景に同 3.9%増。輸入価格は、原油や非鉄金属などの国際商品市況が上半期に史上最高値をつけ、その後低下したものの、高水準を維持していることなどから、同 8.5%の上昇を見込む。鉱物性燃料、原料品、電気機器などの品目で大幅な増加が続く。

貿易収支は再び拡大し、8 兆 2,093 億円となる。

● 2007 年度 - 輸出は増勢が続き 80 兆円台、輸入も数量が増え 70 兆円台に

輸出総額は 80 兆 9,542 億円で前年度比 6.1%増の見通し。世界経済はアジア経済が高成長を続けるなど拡大基調で推移することから、輸出数量は同 3.5%増。輸出価格は同 2.5%の上昇。自動車为好調な輸送用機器を中心に、一般機械、電気機器などで増加が続く。

輸入総額は 70 兆 103 億円で同 2.8%増の見通し。輸入数量は、国内景気が拡大を続けることから同 2.9%増。輸入価格は、一次産品価格高騰の影響が一巡し、同 0.1%の下落に転じる。鉱物性燃料の伸びがマイナスになる。

輸入価格低下により輸入総額の伸びが鈍化することから、貿易収支の黒字は拡大し、10 兆 9,439 億円となる。

### 2. 経常収支の見通し

● 2006 年度 - 所得収支黒字が大幅に増加

経常収支は黒字が拡大し 20 兆 8,200 億円になる見込み。所得収支は、海外からの配当・利子収入が増えたことなどにより黒字が大幅に増え、2 年連続で貿易収支の黒字を上回る。貿易・サービス収支は、貿易黒字の増加により拡大。

● 2007 年度 - 経常収支黒字が 5 年連続で史上最高を更新し 24 兆円台へ

経常収支は、24 兆 1,636 億円の黒字となり、5 年連続で史上最高を更新する見通し。貿易収支は黒字が大幅に増加。サービス収支は、外国人入国者の増加による旅行収支の受け取り拡大や三国間貿易の拡大による輸送収支の受け取り拡大などから赤字幅が縮小。所得収支は海外子会社の収益拡大などにより増加。

## 総括表

### 【 通 関 貿 易 】

項 目	2005年度 実績		2006年度 見込み		2007年度 見通し	
	(億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(億円)	対前年度比増減 (伸び率)
<b>通関貿易収支</b>	78,855	-34,481	82,093	+3,238	109,439	+27,346
<b>輸 出</b>	682,963	(10.7%)	763,056	(11.7%)	809,542	(6.1%)
数量要因		3.9%		6.5%		3.5%
価格要因		6.3%		4.9%		2.5%
<b>輸 入</b>	604,108	(19.9%)	680,963	(12.7%)	700,103	(2.8%)
数量要因		3.4%		3.9%		2.9%
価格要因		15.9%		8.5%		0.1%

### 【 経 常 収 支 】

項 目	2005年度 実績		2006年度 見込み		2007年度 見通し	
	(億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(億円)	対前年度比増減 (伸び率)
<b>貿易・サービス収支</b>	74,072	-21,552	80,065	+5,993	108,057	+27,992
<b>貿易収支</b>	95,633	-35,938	101,316	+5,683	128,057	+26,741
輸 出	651,722	(10.8%)	728,151	(11.7%)	772,511	(6.1%)
輸 入	556,089	(21.8%)	626,835	(12.7%)	644,454	(2.8%)
<b>サービス収支</b>	21,560	+14,387	21,251	+309	20,000	+1,251
<b>所得収支</b>	126,094	+29,653	139,341	+13,247	144,129	+4,788
<b>経常移転収支</b>	8,934	+1,035	11,206	-2,272	10,550	+656
<b>経常収支</b>	191,233	+9,137	208,200	+16,967	241,636	+33,436

### 【 前 提 条 件 】

項 目	2005年度 実績	2006年度 見込み	2007年度 見通し
世界貿易 (暦年)	7.5 %	9.3 %	7.4 %
世界経済 (暦年・実質)	4.9 %	5.1 %	4.7 %
米国経済 "	3.2 %	3.4 %	2.8 %
EU経済 "	1.8 %	2.7 %	2.1 %
アジア経済 "	8.5 %	8.4 %	8.1 %
日本経済 (実質) [連鎖方式ベース]	2.4 %	2.5 %	2.1 %
円相場 (対ドル)	113.3 円	115 円	111 円
原油入着価格 (ドル/バレル)	55.8 ドル	62 ドル	58 ドル

(注) 2005年世界貿易および世界経済は"World Economic Outlook" September 2006による  
ただし、アジアはIMF定義による「アジア途上国(25)」+「NIES(4)」の29カ国ベースに調整

お問い合わせ : 社団法人日本貿易会 国際・調査 G

〒105-6106 港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 6F

Tel: 03(3435)5959 Fax: 03(3435)5979 e-mail: iar@jftc.or.jp

<http://www.jftc.or.jp/> …HPより全文ご入手いただけます。

## 商品別貿易の見通し(通関ベース)

### 1. 輸 出

#### 2006 年度

世界経済の同時好況が続いていること、円の実質実効レートが1985年以來の円安水準にあること、高付加価値品の創出により日本企業の国際競争力が向上していることなどを背景に、輸出は堅調に増加する。輸送用機器は、自動車は北米での日本車シェアが拡大することや資源高騰で好景気に沸くロシアや中東向けの販売が増加することなどから増勢が続く。電気機器は、世界的なデジタル家電の需要拡大などを背景に、半導体等電子部品を中心にアジアの生産拠点向けに増加する。一般機械は、米国向けのノートパソコンや欧州向けの原動機(自動車用エンジン、ガスタービン等)が好調なことなどから増加する。化学製品は、アジアでの需要が強いため、引き続き増加する。鉄鋼は、中国の供給力増加により汎用鋼材の輸出は伸び悩むが、自動車用鋼板等の高級鋼材の輸出は増加が続く。

#### 2007 年度

世界経済は、先進国で成長率がやや減速するものの、アジア地域を中心に新興国が高い成長を続けるため、輸出は堅調に伸びていく。輸送用機器は、自動車は海外現地生産が進むこともあり輸出台数の伸びは減速するが、高級車の割合が増加するため、金額では2ケタの伸びを続ける。自動車の部分品は、現地調達比率の上昇や三国間取引の増加により、微増にとどまる。電気機器は引き続き増加が続くが、五輪やサッカーW杯などのビッグイベントがないため、需要の大きな伸びは期待できない。一般機械は、世界的な景気拡大により好調が続くが、米国経済の緩やかな減速に伴いパソコン類などで需要が抑制されるため、伸びは鈍化する。

### 2. 輸 入

#### 2006 年度

国内景気の回復やアジア諸国との国際分業体制の進化、国際商品市況の高止まりを背景に増加が続く。鉱物性燃料は、上半期は原油が夏場に高騰したことにより大幅な増加となったが、下半期は原油価格の低下や暖冬の影響もあり減少に転じ、年度を通しては2ケタの伸びを維持する。原料別製品は、非鉄金属の市況高騰により大幅に増加する。原料品も鉄鉱石、非鉄金属鉱の価格上昇により高い伸びを続ける。化学製品は、国内需要が堅調なため、2ケタの増加が続く。電気機器は、半導体等電子部品が「ウィンドウズ・ビスタ」の発売に合わせたパソコン向けやナンバー・ポータビリティの導入で在庫を増やした携帯電話向けが好調であったことから、伸びが高まる。

#### 2007 年度

日本経済は緩やかな拡大を続けるが、原油や国際商品市況の価格が2006年度よりは低下するため、輸入の伸びは大幅に鈍化する。鉱物性燃料は、原油や石油製品の価格が下がるため、減少に転じる。石炭も需給緩和を見込む。原料別製品は、需要は伸びるが価格上昇圧力は緩和され、若干の増加にとどまる。原料品は、鉄鉱石、非鉄金属鉱の価格は伸びが鈍化するも上昇が続くため、2ケタの伸びを維持する。化学製品は、需要の増加は続くが原油価格低下の影響を受けて価格が低下し、伸び率は鈍化する。電気機器は、半導体等電子部品が引き続きパソコン向けで好調だが、携帯電話向けの需要は鈍化するため、増勢は緩やかになる。

## ・経常収支の見通し

### 2006 年度

貿易収支は、前年度比 5,683 億円増の 10 兆 1,316 億円となり、2 年ぶりに黒字幅が拡大する。所得収支は、海外からの配当・利子収入が増えたことや海外現地子会社の収益拡大などにより黒字が大幅に増え、前年度比 1 兆 3,247 億円増の 13 兆 9,341 億円となる。経常移転収支は、海外への労働者送金の増加を背景に 1 兆 1,206 億円の赤字となり、前年度よりも 2,272 億円赤字幅が拡大する。以上の結果、経常収支黒字は、所得収支の黒字拡大を主因に前年度比 1 兆 6,967 億円増の 20 兆 8,200 億円となる。

### 2007 年度

貿易収支は、輸入の伸びが鈍化することから 12 兆 8,057 億円と、前年度よりも 2 兆 6,741 億円黒字幅が拡大する。サービス収支は、外国人旅行者の増加による旅行収支の受け取り拡大や三国間貿易の拡大による輸送収支の受け取り拡大などにより 2 兆円の赤字となり、前年度比 1,251 億円赤字幅が縮小する。所得収支は世界経済の好調により日本企業の海外現地子会社の収益が増加することなどから黒字幅が拡大し、前年度比 4,788 億円増の 14 兆 4,129 億円となる。以上の結果、経常収支黒字は、貿易収支の黒字拡大を主因に前年度に比べて 3 兆 3,436 億円増の 24 兆 1,636 億円となり、5 年連続で史上最高額を更新する。

## ・前提となる経済環境の見通し

### 1. 世界経済

世界経済は、米国経済が減速はするものの底堅く推移し、中国を中心とするアジア諸国は高成長を続け、欧州経済も回復を続けることから、同時拡大が続く見通しである。世界の実質 GDP 成長率は、2006 年は 5.1%、2007 年はやや減速し 4.7% を予想。

米国経済は、企業収益が好調を維持する中で、個人消費が増加を続けており、住宅投資の過熱感は和らぐものの、全体として底堅く推移し、2007 年は 2.8% の成長を想定。中国を中心とするアジア諸国は、設備投資の拡大や輸出の増勢が続くことから、2007 年も高成長を続け 8.1% の成長を見込む。欧州経済は、ドイツを中心に設備投資が伸びるなど景気回復が鮮明になってきているが、2007 年 1 月のドイツの VAT(付加価値税)税率引き上げによる消費の抑制効果もあり、2007 年の成長率は 2.1% とやや減速する見通しである。

### 2. 日本経済

日本経済は、輸出が世界経済の拡大や円安を背景に増加を続けており、好調な企業業績を背景に、デジタル家電分野を中心に設備投資も高い伸びを示しており、回復を続けている。2007 年 1 月に所得税、6 月に住民税の定率減税の廃止が予定されており、個人消費を抑制する要因はあるが、堅調な企業収益が雇用・所得環境に波及し、個人消費を下支えし、日本経済は緩やかな拡大を続ける見通しである。実質 GDP 成長率は、2006 年度は 2.5%、2007 年度は 2.1% を予想する。

### 3. 為替相場、および原油価格

米国経済の減速により日米金利差が縮小に転じ、経常収支不均衡の調整もあり、緩やかに円高が進み、2007 年度は 111 円を見込む。原油価格は、当面は、現在の水準で推移するものの、世界経済の拡大に伴い緩やかに上昇し、2007 年度の入着価格は 58 ドルを想定する。

以上